



黄金町バザール 2011 安部泰輔《アカイクツヲハイタネコ》 撮影：笠木靖之

# シンポジウム 美術とコミュニティ



飛生芸術祭 2011 撮影：大河内禎

**山野真悟氏** 特定非営利活動法人  
黄金町エリアマネジメントセンター事務局長

**国松希根太氏** 彫刻家、飛生アートコミュニティ代表

**藤沢レオ氏** 金工家・彫刻家、工房LEO・樽前arty代表

聞き手：**佐藤友哉** 北海道立近代美術館学芸副館長



樽前arty 2009「舞踏・田仲ハル＋野外彫刻・藤沢レオ」 撮影：上嶋秀俊

2012年3月3日(土)

14:30～ 聴講無料

北海道立近代美術館 講堂

主催：北海道立近代美術館

# シンポジウム 美術とコミュニティ

近年、廃校や廃屋を利用したイベントなど、地域の活性化やコミュニティの再生を目的として、美術作品の展覧会やアートプログラムが各地でみられるようになってきています。1960年代末以降、彫刻作品の公共空間での設置によってまちづくりの計画や地域の整備を図ってきたパブリック・アートの時代の状況とは変わって、現在は地域やコミュニティの人々との関係づくりを目標として、美術の展開手法は多彩、多様になってきているのです。

今回のシンポジウムでは、美術とコミュニティに携わっているディレクター、アーティストの方々を迎え、美術はコミュニティや地域の構造のなかで有効に機能させることができるのか、また双方のよりよいあり方とは何なのか、考える機会としたいと思います。

講師として、アートによる町の再生というテーマをもって、2008年より横浜トリエンナーレと連携したプログラム「黄金町バザール」のディレクターを務める山野真悟氏、白老町の廃校を共同アトリエとして創作活動を続ける「飛生アートコミュニティ」代表の彫刻家国松希根太氏、苫小牧市の若手芸術家グループ「樽前arty (アーティ)」代表の金工家・彫刻家藤沢レオ氏をお迎えし、それぞれの活動事例をお話いただきながら、美術とコミュニティのあり方を考えます。

## パネリスト



### 山野真悟

特定非営利活動法人黄金町エリアマネジメントセンター事務局長

1950年福岡県生まれ。1971年より福岡を拠点に美術作家として活動、IAF芸術研究室主宰。1990年よりミュージアム・シティ・プロジェクト事務局長として「ミュージアム・シティ・天神」他「まちとアート」をテーマにしたイベントを多数企画する。2004年より07年、(財)福岡市文化芸術振興財団「ギャラリーアトリエ」の企画運営。途中2005年から1年間「横浜トリエンナーレ2005」キュレーターに就任。アートによる街の再生をテーマに、2008年より「黄金町バザール」のディレクターを務める。現在横浜市在住。



### 国松希根太

彫刻家、飛生アートコミュニティ代表

1977年札幌市生まれ。多摩美術大学美術学部彫刻科を卒業後、2002年より白老町にある小学校廃校を利用したアトリエ「飛生アートコミュニティ」を拠点に制作活動を行なう。近年は彫刻、平面やインスタレーションで、木の素材感を活かした作品を発表する。飛生アートコミュニティの代表として、「飛生芸術祭」などアート関連のイベントや展覧会の企画にも多数関わる。現在白老町在住。



### 藤沢レオ

金工家・彫刻家、工房LEO・樽前arty代表

1974年苫小牧市生まれ。道都大学美術学部デザイン学科を1997年に卒業後、ニセコのRAM工房の沢田正文に師事。1999年に独立し、工房LEOを主宰。2004年から活動拠点の苫小牧で「樽前arty」を開催している。2007年パリ国際サロンで優秀賞を受賞。木や金属・不織布などを素材としたインスタレーションで、種子と萌芽をモチーフとして生命を表現する作品を発表する。現在苫小牧市在住。